

百草の会報

61号

平成30年5月5日

会長 三上佳子

今年も無事に馥林祭が終わりました。たくさんのご参加ありがとうございました。お天気もよく少し暑いくらいでした。今年はタケノコが少なく、イノシシにも食べられてしまってお土産にできませんでした。残念です。ゴールデンウィーク、皆様はどのようにお過ごしでしょうか？人混みが嫌いな私は、世の中の人が出かける時期や場所にはまず出かけません。それでもたまに必要に迫られて出かけたところで大渋滞などに巻き込まれうんざりすることがあります。

今回の馥林祭の料理です。

宝宗寺の台所で私たちが作っています



桜ご飯（レンコ鯛のそぼろ）

蕨と鶏団子の吸い物

ひらそのお造り

野菜の煮物

豚肉と筍のオイスターソース炒め

春キャベツのエノキタケ和え

吸い物の味付け中、別の用事で呼ばれて中途半端な味のままお出しして、申し訳ありませんでした。毎年何か失敗してしまいます。

親睦会ご案内

コープやまぐちテーマグループとのコラボ

6月5日(火) 陶芸教室 11時半 宝宗寺集合 るーらる雲海へ移動(車で10分程度)

持って来るもの エプロン 型紙や型押しなどやりたいことがあれば必要なもの

参加無料 12時 昼食(お楽しみ)

作品作り(時間がありません。作りたい物のイメージなど 予め決めておいてください)

15時頃終了予定 作品はお預けして焼いていただきます。

会員だより



4月29日、青葉若葉に囲まれた萩市宝宗寺で行われた馥林祭に、家内と二人で初めて参加して、感激させられることがいくつかあり、感謝するとともにご報告します。

その一 当日朝には、ご住職自ら明倫センターまで出て、タクシーの配車に務めてくださったことでした。

何よりのお褒めのお言葉ありがとうございます

その二 昼食は**仕出し屋の料理**も付きましたが、奥様の手造りで小鯛のそぼろが桜色に染められて、ご飯の上に装ってあったことです。

その三 ご家族の子どもづれ、あるいは友人を伴った方など、意外と若い方が多いことでした。

そして当日の極めつけは、寺を辞するタクシーを待っている時のことでした。

ご住職は朝と同様で、小走りに法衣を翻しながらタクシーのお世話に駆け足姿でしたが、手配を終えられてふと一言、「来年も生きておれば…」と微苦笑されたのでした。

これを聞き流すことができなかつた若い女性が一人前に出て、住職の両手を丁重にとって、「そんなことをおっしゃらないでください、来年もお元気でいらっしゃいますよ」と、寄り添うように頭を下げておいででした。

「放てば手に満てり」とは道元禅師のお言葉ですが、ご住職ご夫妻は委細構わず、むきだしの人間同士として、放てるものは可能な限り手放されていました。

これに心を動かされないものがあるのでしょうか？

寺を辞する若い女性は、命を育てて命をつなぐ本性がじっとしておれず、思わず慈母観音になっておられたように見受けられたのでした。

防府市 西本正彦

✿ 感想をお寄せいただきありがとうございました。
皆様のお便りをお待ちしております。